

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 26年 3月 3日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物はニュージーランドから輸入した木材を利用して、木のぬくもりや香りがあふれる造りとなっています。建物のすぐ前が百合が原公園となっているため、天気の良い日やちょっとした時間にもですぐに公園に行くことができ、とても恵まれた環境にあります。地域の方々も温かく協力的で、避難訓練や町内の催し物などにも利用者と職員とで参加させていただいている。アットホームな雰囲気づくりを心掛けて、入居者の方々には生活させていただきよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201594-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201594-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟」は、バス停から徒歩数分の自然環境に恵まれた札幌市郊外の静かな住宅地に立地している。すぐ前には緑豊かな百合が原公園があり、季節を感じながらゆっくり散歩を楽しむ事が出来る。中庭を中心にL字型になっている平屋建ての2ユニットで、居間の天窓やウッドデッキに面した大きな窓から明るい光が注ぎ、開放感のある造りになっている。床下からの冷暖房設備や居室毎にトイレと洗面台が備えられているなど、プライバシーにも配慮した充実した設備になっている。法人のバックアップ体制の下、研修体制やマニュアルなども整備されている。地域の保育園児が事業所の中庭に遊びに来たり、七夕で来訪した子供達に歌を披露してもらう等、子供達と交流する機会が多く持たれている。各管理者は、職員体制の充実を図りながら地域との交流を更に深め、利用者一人ひとりが地域の一員であると感じてもらえるような支援をしていきたいと前向きに取り組んでいる。職員間のコミュニケーションを深めながら、その人らしく楽しい生活を送る事ができるように、個々の意向に沿った利用者中心の対応を行っている。職員の各利用者に応じたきめ細かく親身な対応や明るい笑顔は、家族の喜びと安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(1号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念があり、職員は理念を意識して日々取り組んでいる。	法人事業所共通理念の中に「社会的緩和」という項目を掲げ、地域に根差した事業所を目指して取り組んでいる。会議や介護計画作成時に事例に沿って理念に触れる機会があるが、更に職員間で理念の内容を再確認して行く意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事に利用者で参加し地域との交流ができています。又、避難訓練にも町内会の方も参加していただき共に防災に努めている。	地域の夏祭りにテントを準備してもらい、利用者全員で参加している。保育園児が散歩の途中に立ち寄り、七夕の時には近隣の子供達が来て歌を披露している。専門学校生のボランティアを毎年受け入れて、利用者で交流する機会も設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の催し物などにて、認知症の方のケア方法や施設状況などを議題や話題に取り上げ話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースで運営推進会議を開き、施設でのサービスや利用者状況などを議題に取り上げ話し合っている。参加者からの意見も聞くことができ今後の取り組みにも活かしている。	防災や感染予防、外部評価結果などをテーマに事業所からの報告を中心に行っている。家族に会議案内を送付して口頭でも参加を呼びかけているが、諸事情で参加が難しいため、今後も、家族の意見を反映できるように工夫して行く意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行われている、札幌市や区の連絡会議や研修に参加し情報交換などを行っている。又、区の管理者連絡網があり連絡がとれる環境にある。	役所とは、郵送で書類の手続きを行う事が多いが、おむつサービスなどについて直接相談する事もある。役所とのやり取りは統括管理者が中心に行い、課題があればすぐに相談できる体制が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が観覧できるマニュアルを作成し確認できるようにしている。玄関の施錠も防犯の為、夜間はしているがそれ以外は行っていない。	身体拘束廃止マニュアルと「禁止の対象となる具体的な行為」を含む身体拘束などに関する小冊子を整備している。外部研修後の報告研修や会議の中で事例に沿って身体拘束に繋がらないように検討している。「禁止の対象となる具体的な行為」11項目について、更に学びを深める意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着替え介助の際には、皮膚の観察を行い虐待の疑いがないかを確認しあっている。職員間の会話の中でも「これは虐待ではないか？」と話題に出して意識を高めている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別な研修の参加や話し合いの場を設けておらず、今後は学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身体面での理由で解約に至る場合には、医師にも話し合いの場に入っただき家族が納得されるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際には、近況報告や意見交換を行い、それに対して反映できるよう努めている。又、家族様用アンケートも実施し希望や意見を聞いている。	定期的に家族アンケートを実施する事で、率直な意見も寄せられるようになって来ている。家族からの意見や要望は、個別に記録したり、ケアプランに取り入れて反映できるように取り組んでいる。	各利用者や事業所の様子を家族に報告する機会として、事業所通信の定期的な再発行に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの個別面談や職員自己申告書を実施するなどして、職員の意見や希望を収集し、それらを管理者会議などにて話し合い反映できるよう努めている。	統括管理者や管理者は、各職員と日頃から話をする機会を作ったり、年1回、統括管理者との個別面談を行っている。会議に欠席する場合も事前に意見を聴き取り、全職員の意見や提案が反映されるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニットの現状把握に努め、必要ならば法人本部に改善を求めている。又、管理者会議などを通して職員の労働環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて研修委員会が設置されており、法人内外の研修案内を随時、案内していただいている。全職員が随時、研修に参加するに至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期の管理者会議や防災対策会議等を通して、他ユニット職員との情報・意見交換が行える機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や紹介者からの情報をもとに、本人との面談を行い入所にあたっての希望や不安なことを相談していただき対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談～入居に至るまでに家族とは密に連絡をとったり、必要あれば訪問や来所をしていただき不安なことや希望を聞き入れ少しでも対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で、家族やサービスを受けていた機関からの情報を求め、本人の「必要なこと」を見極めサービス利用を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の家族や生い立ちを話題に出すことで、親近感を感じていただき職員と利用者との距離が縮むよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時に応じて家族と連絡や相談を行い、家族の意見や考えを尊重し対応するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居によって馴染みの方との関係が途切れないよう、電話連絡や手紙などの支援を行なっている。	以前住んでいた近隣の方や、馴染みの床屋さんが来訪する利用者もいる。手紙のやり取りをしている利用者もあり、個々の状況に応じて代筆や投函の支援も行っている。利用者の意向に沿って、数人で時計台や狸小路などに出かけた事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの交友関係を把握し、普段の過ごされる場所や食事席などに配慮している。又、利用者同士の交流が困難な方は職員との関わりにより孤立を防いでいる。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居後も、家族より相談がくることがあり、親身になって相談にのっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活観察や職員間の情報交換により一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。ちょっとした時間でも利用者との交流の場をもち、その方の把握に努めている。	利用開始時などで遠慮している時は、家族を通して本人の思いや意向を聞き取る事もある。日頃の行動や仕草、言葉などを記録に残して全職員で情報を共有して統一したケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報収集を行い、把握に努めている。又、入居前に他サービス利用があれば、そこからの情報も求め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや朝夕の引継ぎ時には少しでも多くの情報交換が行えるよう時間を設け、全スタッフが一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや、家族からの希望や意見を踏まえ、三ヶ月周期で介護計画の見直しを行い作成している。	家族や本人の意向を可能な限り事前に聴き取り、計画作成担当者を中心に、3か月毎に全職員で評価をして更新計画を作成している。今後は、介護計画と日々の記録が連動するように、更なる記録の充実に取り組んで行く意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが日々のアセスメント記録、スタッフ連絡ノート、家族連絡ノートなどを通して情報を共有し、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情により困難な対応(受診や買い物など)や、個別に応じたサービス(レク活動や外出など)を臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には一人でも多くの利用者が参加できるように取り組んでおり、地域との関係を大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より本人や家族に協力病院との協力体制を説明している。希望や状況によっては他医療機関への対応も行なっている。	内科医・精神科医の往診が定期的に行われている。かかりつけ医や専門医の受診は職員が同行したり、家族が受診支援する時はメモ書きで日頃の状況を伝えて適切な医療が受けられるように支援している。受診記録は個別に記録している。	

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの訪問看護が週に一回のペースであり、利用者の状態報告を行っている。訪問以外でも変化があればいつでも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は看護師や相談員、主治医と密に連絡を取り、状態把握に努めている。又、往診時には医師や看護師に状態を訊ける機会でもある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については入居時に家族に方針を伝えている。そのような時期が近づいた時には医師や家族との話し合いの場を設け今後の対応を話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って、事業所としての方針や法人系列の施設についても説明している。身体状況の変化に応じてその都度家族や主治医と方針を検討して、より良い支援ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で救命処置講習を予定しているが、随時、新しい職員が講習を受講するに至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には消防隊員の立会い、地域住民の参加を呼びかけ行なっている。又、災害対策会議を定期的に開催して災害時の対策を話しあっている。	昼夜の火災を想定した自主訓練と、消防署の協力の下、地域役員と家族1名が参加した昼想定の避難訓練を実施している。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練も定期的に行っている。現在、地震マニュアルの作成に取り組んでいる。	地震マニュアルの作成と共に、具体的な事例に沿った地震時などの対応について、職員間で検討する機会が持たれるように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は尊敬の姿勢と共感の気持ちを持って、日々、利用者と接している。	職員は、入職時に利用者への言葉遣いや対応を学び、丁寧で温かな言葉かけで接している。居間で記録をする時も個人情報の取り扱いに注意し、書類は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の表情を観察し、職員に相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。集団行動においても無理な強要はせずその方の意志を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ入浴や食事など焦らないよう声掛けなどに配慮している。又、個々の趣味や性格に応じて余暇活動の提供も行なっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装が同じにならないよう配慮している。自己決定できる方は尊重し、おしゃれを楽しんでいた		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、その方の嗜好により代替の者に変更している。一緒に調理とまではいかないが軽い下準備などは一緒にしている。	食材業者に利用者の好みや調理内容を伝えて献立に反映させている。誕生日などに出前を取り寄せたり、また近くの店で回転寿司や軽食を楽しんでいる。畑で採れた野菜類で、いも餅やかぼちゃ団子のおやつを利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事・水分量のチェックを行っており個々の必要摂取量を目指している。又、一人ひとりの状態に応じてキザミやお粥にしたり、配膳量にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力可能な方には声掛けを行っている、支援が必要な方は毎食後、義歯洗浄と口腔ケアを行っている。又、定期的な歯科往診があり口腔ケアや義歯調整等をしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状況や記録により、その方の排泄パターンを把握して、トイレ誘導や促しを行っている。	声かけや介助の必要な方の排泄を記録し、さりげない声かけで自室のトイレに誘導している。居室のドアを閉め、カーテンを引いて羞恥心に配慮している。定時誘導を行い、紙パンツから布下着と小さいパット使用に改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録よりチェックを行い、状況によっては水分を多めに促したり下剤調整を行なっている。又、排便状況の確認が難しい方は看護師にも相談し腹部の状態を診てもらい確認を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが、利用者の都合や状態に応じて時間や曜日をずらして入浴していただいている。一人に対しての入浴時間も多く設定し、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	午前中を中心に、一人週2回を目途に入浴を支援しているが、午後から入る方もいる。入浴を嫌がる場合も、気分やタイミングを見て週に1回は入れるようにしている。同性介助の意向を聞き、希望に沿ってゆっくり入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの身体状況や生活習慣に応じて休息をとっていただいている。又、夜間の睡眠に支障が生じないよう配慮も行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬ファイルを作成し、全職員が服薬状況を確認できるようにしている。又、受診記録により薬の目的や変更の経緯などを伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族からの情報をもとに、趣味や能力に応じたアクティビティー活動や作業を提供することで張り合いのある生活が送れるよう支援している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的な外出希望には対応できない場合があるが、季節に応じた外出レクや外食等を行い外出することの楽しみを感じていただいている。又、御家族との定期的な外出や外泊を楽しまれている。	近くの百合が原公園や周囲を散歩し、中庭やウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。家族との外出の他、買い物や図書館への個別支援も行っている。数人でモエレ沼公園などへのドライブも楽しんでいる。冬季には、家族の協力や受診で外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し自己管理可能な方は所持してもらっている。自己管理困難な方もお小遣い程度を所持していただくことで、お金に対する安心感が持てている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方もおり、操作が解らない場合には都度、支援を行ない連絡ができる環境にある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事(ひな祭り、クリスマス等)の装飾はもちろん、最近の行事や誕生者の写真を壁に飾り余韻に浸っていただいている。個室の温度にも気を配り必要に応じて安全な暖房機等を提供している。	L字型の2ユニットの居間からは中庭が眺められ、吹き抜けの大きな天窓から自然光が入り、心地よい空間になっている。ウッドデッキを囲むような広い廊下端の窓から陽が入り、開放感もある。季節の装飾や利用者と一緒に作った貼り絵が飾っており、落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの性格や交友関係を察し、普段の過ごされる場所や食事等の席に気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より御家族や本人と相談し、本人にとって危険が予想される物や必要な物等を話し合い、なるべく入居前の延長になるように配慮している。	居室内にトイレと洗面所が付いており、造りつけのクローゼットもあり、大きなテーブルやソファを置いても十分な広さである。家具類や小物類を持ち込み、趣味の装飾や家族の写真などを飾りその人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせて、手摺りや鏡の位置、電気コードの配置などにも気を配り、その方がスムーズで安全に生活できるよう配慮している。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	平成 26年 3月 5日	評価結果市町村受理日	平成 26年 3月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1号棟ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201594-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201594-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2号棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふぁみりあの共通理念を施設内に提示している。また、日常に記載する記録にも目に届くように添付している。ユニット会議でも話し合いを継続している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や夏祭りに参加して、地域交流を継続的に行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事への参加を通じて事業所内での活動について話している。また、地域住民からも積極的に声をかけていただいている。夏祭りにも参加して、地域交流を継続的に行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行なっており、今年度より、副会長さんが変わり新たに事業所内での様子や、避難訓練の参加や意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市連絡会や、北区管理者連絡会などの定期的に参加をして、札幌市の情報提供等や、行政通達の案内をユニット間で提示できるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のホーム内の生活の中で、職員側に立たず利用者側に立つように心がけている。虐待防止の研修を受けており、ユニット会議でも研修内容についても話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議での話し合いでも、禁止事項につながらないか、また、利用者側の目線で配慮しているかを検討している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員より、成年後見のパンフレットをもらい参考にしてはいるが、活用には至ってない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に事前に見学をしていただきホームでの生活の様子を知っていただくようにしている。契約説明時は契約文読むだけでなく、わかりやく説明できるように務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をして苦情受付の流れを入所時に説明し提示している。家族からの意見や要望に対しては、取り組みについての検討を早急にして説明とご理解を頂いている。アンケートの配布もおこなっており、今後の運営に活かせるように話し合いを行って。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ごとにユニット会議を行っており、業務上での話し合いやスタッフの意見を取り組めるようにしている。会議録や意見を通じて、統括管理者に報告をしている。今年度は、職員の個人面談を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成に関して休み希望を制限せず、勤務表を作成している。家族環境に配慮して、急遽の休みでも対応できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、参加するように努めている。参加資料をユニット会議で発表し話し合いをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や札幌市・北区管理者連絡会議の場での交流はあり、定期的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前で利用者が不安であることを確認して、利用者の生活リズムが崩れないように配慮している。家族からは、利用後の様子などホームでの生活を報告し家族からも助言を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに寄り添うように、初回のインテークを通じて利用前の不安や利用後での様子を詳細に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時は、本人の生活状況で困っている事家族も含めて、他のサービス利用などケアマネジャー、病院職員、施設職員との連携をとり包括的に相談を受けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの希望など、気持ちに沿うかたちでケアができるように支援をおこなっている。日々の気持の変動や体調などに配慮し同じ環境の中で穏やかに過せるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を家族に話したり、地方にいる家族の方には、手紙や電話を通じて関係が継続できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で関係を継続している方もいて特に年末年始は友人の来訪もあり、年賀状も欠かさずにきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は、同席にこだわる方以外は、同じ席だけではなく、状況により席を変更したり、また中庭の景色が見えるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、家族の精神的な緩和や利用者の身体状況を確認したり、相談が継続できるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の様子を観察した上で意向に添うように、家族、職員間で話し合いをしたり、医療機関と連携をとったりと意向に添うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での暮らしやサービス利用時での様子を見極め、サービス状況経過や評価をしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記載には、日々での生活の様子。身体状況や受診時については、受診記録に記載して、訪看、医師と連絡をかせないように連携をとっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議でモニタリングを行いケアプランに充実できるようにしている。利用者、個々の言葉や思いを再度、職員、家族が共通認識ができるようになっている。必要時は家族に相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・受診記録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。特に必要な特記事項は、申し送りノートに記載し全職員共有できるように努めている。記録には、利用者の思いが共有できるように言動を記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々生まれるニーズについて、個人記録及び申し送りノートに記載して、情報の共有ができるように行い、その都度生まれるニーズについては、職員や家族間とも連携がとりながら取り組めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を通じて公園の散策や近隣の子供達の交流、町内会の参加もしている。地域資源との協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、主治医の確認をして、協力病院に変更するかを確認している。在宅生活より利用していた。かかりつけ医を利用している方もいる。内科往診2回、精神科往診2回、訪看が週1回あり、体調に変動があれば、家族に確認に受診等をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週一回訪問看護があり、その都度体調変化などを看護師に相談し必要があれば、受診できるように体制をとっている。また、利用者の生活指導への助言も受け訪問看護記録が閲覧できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談員、医師、看護師、家族と連携をとり、入院時での体調変化など家族、職員間で共有できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院、医師、家族共に現状把握と今後についての話し合いをして、利用者、家族の希望を踏まえながら方向性を常時確認できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時でのマニュアルはいつでも確認できるように、日誌に添付している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。年1回に町内会や地域包括職員と一緒にこなっている。ふぁみりあ内でも防火管理者会議を行っており、防火に対する意識を高め、現在は備蓄品も整備されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して口調がきつくないように、一人一人の生活リズムに合わせながら声かけを行なっている。居室で過ごしたい時間やプライバシーに配慮し、閉じこもりを防ぐように、生活が単調にならないように声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士や、利用者からの思いが表出できるように伝えたい言葉を引き出せる環境づくりおこなっている。サンルームでの利用者同士の会話の中から、思いやきっかけが発見に繋がることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて体調や気分に合わせてながら、その日での生活をどうしたいかを聞いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、身だしなみができるように声かけ、介助を行なっている。起床時は、利用者のペースに合わせてながら整容ができるように支援している。月1回訪問理容がある。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片付けは個々の能力に合わせて手伝って頂いている。食事の禁嫌食の把握もしているが、利用者の中には漬物を好む方も多くいて、家族協力のもとで頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事量が違いまた、栄養が摂れるように医師、看護師と相談している。栄養が不足がちの方は、エンシュア等を摂取している方もいる。水分量、食事は記録記載して、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の理解力に合わせて促し、介助を行っている。歯科衛生士による訪問ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯は一人一人様々な為、時間は決められておらず、認知やADLに合わせて、自発的にけるように声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳は、朝に飲用の習慣を行っており、日中の食後のデザートでもヨーグルトを飲むこともある。便秘ぎみの方については、主治医、看護師と相談をしながら調整をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、体調や気分の変動に合わせて入浴をしている。職員一人に対して利用者一人に対応している。仲の良い利用者同士一緒に入る事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間テレビの視聴を楽しみにしている方は、チャンネル、新聞欄と一緒に確認したり、入眠前に仲の良い利用者同士が居室やリビングで過ごしている事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容については、認知力に応じて往診時に先生と話し合いをしている。再度薬の説明をわかりやすく話し服用について理解していただいている。症状の改善等があれば、医師や看護師と話し本人と確認をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人に合った役割である仕事ができるように、声かけをして軽作業など行っている。嗜好品については、継続できるようにケアプランにも充実されている。気分転換を兼ねて買い物支援も行っている。		

グループホーム 百合が原ふみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出を行い、お花の咲く時期に合わせてながら希望に応じて外出をしている。地域交流や家族協力のもと外泊、外出支援も行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の認知力に考慮して、家族と相談のもと少額管理している。少額管理することで安心感があり、買い物時は金銭の出し入れを自力でしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の利用希望時は、個々の力に合わせて支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節ごとに利用者が目に届くところに写真を貼ったり、窓側に朝顔を植えたりと季節ごとに安心できる環境を工夫している。廊下途中にはソファを置いて、利用者同士が話せる空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファやサンルームのソファは、居室以外でも一人になれる空間があり、本を読んだり、新聞を読んだり利用者同士でも過ごせる空間になっている。座席も固定せず利用者の思いに配慮して席替えをしたり、孤独感を感じないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、お花を好む方は、お花を育てたり、行事の時の写真や家族写真を貼ったり、入所前から、在宅生活で使い慣れたものを持ち込み使用している物もある。その後も、家族と相談して使い慣れた物を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広く、手すりを設置し、室外では車椅子使用の方も、室内では、歩行器を使用したり、つたえ歩き、自力歩行の方もいる。身体機能に応じて、移乗バーも設置している。自力歩行意欲を促す為、声かけや促しを適切に行っている。定期的に歩行練習をおこなっている。利用者もいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 百合が原ふぁみりあ

作成日：平成 26年 3月 20日

市町村受理日：平成 26年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	各利用者や事業所の様子を家族に報告する定期的な広報誌の発行をしていない。	利用者の様子や事業所での行事等の紹介をしながら家族に安心していただく。個別にて、利用者のホームでの様子をコメントしながら伝えていく。	利用者の様子や事業所での行事等の紹介をして広報誌を定期的に作成する。	H26年4月～H27年3月
2	35	地震・停電対策等のマニュアルと事例等がない。	地震及び停電時での訓練を職員間で話し合いをしていく。	地震・停電等のマニュアルを作成し具体的な事例を検討していきながら、訓練を実施していく。	H26年4月～H27年3月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。